

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年8月14日
【四半期会計期間】	第23期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	株式会社セキュアヴェイル
【英訳名】	SecuAvail Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 米今 政臣
【本店の所在の場所】	大阪市北区東天満一丁目1番19号
【電話番号】	06 - 6136 - 0026
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営企画本部長 大山 紀夫
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区明石町8 - 1 聖路加タワー40階
【電話番号】	03 - 6264 - 7180
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営企画本部長 大山 紀夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第1四半期連結 累計期間	第23期 第1四半期連結 累計期間	第22期
会計期間	自2022年4月1日 至2022年6月30日	自2023年4月1日 至2023年6月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高 (千円)	225,592	241,675	1,029,209
経常損失 ( ) (千円)	38,638	35,744	30,769
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	38,334	39,652	44,039
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	47,198	63,046	51,085
純資産額 (千円)	1,063,060	1,123,100	1,060,053
総資産額 (千円)	1,294,448	1,446,561	1,320,503
1株当たり四半期(当期)純損失 ( ) (円)	4.99	5.16	5.73
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	82.1	77.6	80.2

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第22期第1四半期連結累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第22期及び第23期第1四半期連結累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)の事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行等に伴うサービス需要の持ち直しやインバウンド需要の回復、また、自動車産業での供給制約緩和や半導体市場の底入れ、原材料高の一服などを受けて、社会経済活動は改善方向に転じつつあります。他方、海外経済の悪化や物価高に伴う消費の下振れや人手不足の深刻化などへの警戒感は根強く、先行きは注意が必要な状況が続いております。

当社グループの属する情報セキュリティ業界では、システムの脆弱性を突いたサイバー攻撃が後を絶たず、社会経済活動に与える影響は深刻化しており、情報セキュリティ対策やログ管理がこれまで以上に重要となっております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、前期より引き続き、既存顧客との契約更新や新規パートナー企業の開拓に加え、新規サービスの企画開発に注力するなど、新規案件獲得に向けた新たな取組みを開始いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における経営成績は、売上高241,675千円（前年同期比7.1%増）、営業損失31,944千円（前年同四半期は39,096千円の営業損失）となりました。経常損失は35,744千円（前年同四半期は38,638千円の経常損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は39,652千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失38,334千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### (a) 情報セキュリティ事業

当セグメントの主力である情報セキュリティ事業につきましては、ストック型サービスの契約更新、新規案件の獲得に注力し、統合セキュリティ運用サービス「NetStare」の売上増加に加え、子会社LogStareの販売増加が寄与したことにより、売上高は200,603千円（前年同期比6.4%増）となりました。セグメント損失につきましては、3,279千円（前年同四半期は16,776千円のセグメント損失）となりました。

#### (b) 人材サービス事業

人材サービス事業につきましては、派遣先からの案件受注が順調に推移したことにより、売上高は41,072千円（前年同期比11.0%増）、セグメント利益は、7,416千円（前年同期比54.4%増）となりました。

## 財政状態の分析

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は974,674千円となり、前連結会計年度末に比べ16,331千円の減少となりました。これは主に、前渡金が9,380千円、その他流動資産が28,827千円増加したことに対し、現金及び預金が37,021千円、売掛金が19,419千円減少したことによるものであります。

固定資産は471,887千円となり、前連結会計年度末に比べ142,389千円増加いたしました。これは主に、投資有価証券が143,803千円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は1,446,561千円となり、前連結会計年度末に比べ126,058千円増加いたしました。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は212,825千円となり、前連結会計年度末に比べ13,206千円増加いたしました。これは主に、前受金が11,183千円、未払金が6,376千円、未払費用が5,965千円増加したことに対し、賞与引当金が5,793千円、未払法人税等が5,213千円減少したことによるものであります。

固定負債は110,636千円となり、前連結会計年度末に比べ49,804千円の増加となりました。これは繰延税金負債が49,956千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は323,461千円となり、前連結会計年度末に比べ63,011千円増加いたしました。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,123,100千円となり、前連結会計年度末に比べ63,046千円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が102,699千円増加したことに対し、利益剰余金が39,652千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は77.6%（前連結会計年度末は80.2%）となりました。

## (2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、10,651千円です。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,600,000
計	15,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	7,690,000	7,690,000	東京証券取引所 グロース市場	単元株式数 100株
計	7,690,000	7,690,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	-	7,690,000	-	627,580	-	323,782

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,680,900	76,809	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 8,700	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	7,690,000	-	-
総株主の議決権	-	76,809	-

(注)1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式48株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社セキュアヴェイル	大阪市北区東天満一丁目1番19号	400	-	400	0.01
計	-	400	-	400	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	769,488	732,467
売掛金	145,258	125,839
原材料及び貯蔵品	1,570	1,570
前渡金	40,479	49,860
前払費用	17,588	19,490
その他	16,618	45,446
流動資産合計	991,005	974,674
固定資産		
有形固定資産	35,117	32,435
無形固定資産	2,279	2,150
投資その他の資産		
投資有価証券	239,939	383,742
その他	52,162	53,559
投資その他の資産合計	292,102	437,302
固定資産合計	329,498	471,887
資産合計	1,320,503	1,446,561
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	14,907	10,055
未払金	12,453	18,830
未払費用	36,116	42,081
未払法人税等	8,925	3,711
未払消費税等	14,329	13,908
前受金	87,465	98,649
預り金	8,361	14,322
賞与引当金	15,023	9,230
その他	2,036	2,036
流動負債合計	199,618	212,825
固定負債		
資産除去債務	8,024	8,024
退職給付に係る負債	2,282	2,616
繰延税金負債	46,168	96,124
その他	4,356	3,871
固定負債合計	60,831	110,636
負債合計	260,450	323,461
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	627,580	627,580
資本剰余金	323,782	323,782
利益剰余金	37,003	76,656
自己株式	123	123
株主資本合計	914,235	874,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	144,937	247,636
その他の包括利益累計額合計	144,937	247,636
新株予約権	880	880
純資産合計	1,060,053	1,123,100
負債純資産合計	1,320,503	1,446,561

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	225,592	241,675
売上原価	140,074	141,520
売上総利益	85,518	100,155
販売費及び一般管理費	124,614	132,099
営業損失( )	39,096	31,944
営業外収益		
受取利息	134	225
雑収入	857	0
営業外収益合計	992	226
営業外費用		
支払利息	-	60
持分法による投資損失	243	3,966
雑損失	290	0
営業外費用合計	534	4,026
経常損失( )	38,638	35,744
特別損失		
持分変動損失	1,729	-
特別損失合計	1,729	-
税金等調整前四半期純損失( )	40,368	35,744
法人税、住民税及び事業税	500	1,052
法人税等調整額	2,533	2,855
法人税等合計	2,033	3,908
四半期純損失( )	38,334	39,652
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	38,334	39,652

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失( )	38,334	39,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,863	102,699
その他の包括利益合計	8,863	102,699
四半期包括利益	47,198	63,046
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	47,198	63,046
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	3,340千円	2,810千円

(株主資本等関係)

・前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)  
該当事項はありません。

・当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

・前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 連結財務諸表 計上額(注)2
	情報 セキュリティ事業	人材サービス 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	188,575	37,017	225,592	-	225,592
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	188,575	37,017	225,592	-	225,592
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	9,061	9,061	9,061	-
計	188,575	46,079	234,654	9,061	225,592
セグメント利益又は損失 ( )	16,776	4,803	11,973	27,122	39,096

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 27,122千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

・当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 連結財務諸表 計上額(注)2
	情報 セキュリティ事業	人材サービス 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	200,603	41,072	241,675	-	241,675
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	200,603	41,072	241,675	-	241,675
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	6,755	6,755	6,755	-
計	200,603	47,827	248,431	6,755	241,675
セグメント利益又は損失 ( )	3,279	7,416	4,136	36,081	31,944

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 36,081千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであり  
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純損失( )	4円99銭	5円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	38,334	39,652
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失( )(千円)	38,334	39,652
普通株式の期中平均株式数(株)	7,689,552	7,689,552
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要	-	-

(注) 1. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの  
1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。なお、前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後  
1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載  
しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月10日

株式会社セキュアヴェイル

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大好 慧 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 高田 充規 印  
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社セキュアヴェイルの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社セキュアヴェイル及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。